

最初の教会の姿

使徒の働き 2 章 41-47 節

はじめに

先週は、さがみのキリスト教会の創立記念礼拝でしたが、今週は日本長老教会の設立記念礼拝です。さがみのキリスト教会は、日本長老教会という教派に属しています。日本長老教会に属する教会は、日本全国に 68 教会あります（2023 年度日本長老教会名簿）。

日本長老教会は、1993 年の 5 月に設立されました。今年で設立 31 周年を迎えます。では、日本長老教会という教派は、どういう教派なのでしょう。日本長老教会の憲法によりますと、「**旧新約聖書に基づき、ウェストミンスター信仰基準に準じて、改革主義信仰、独立自治、長老政治の三原則により、イエス・キリストの福音を立証し、宣教する**」(憲法総則第 16 条)教派です。旧新約聖書に基づき、・・・イエス・キリストの福音を立証し、宣教するというのは、他の教派でも共通することです。では、日本長老教会の特徴は何でしょうか。それは、ウェストミンスター信仰基準に準じて、改革主義信仰、独立自治、長老政治の三原則を持っていることです。

ウェストミンスター信仰基準は、17 世紀にロンドンのウェストミンスター寺院で開かれたウェストミンスター神学会議によって作成されたものですが、日本長老教会は、このウェストミンスター信仰基準を、聖書的な信仰を的確に組織体系的に言い表したのものとして受け入れています。

「改革主義信仰」は、「ただ聖書のみ」の原理に堅く立つ信仰であり、ウェストミンスター信仰基準は、その改革主義信仰を言い表す信仰告白の一つです。「独立自治」というのは、あくまでも日本長老教会は、国家や他のいかなる教派や団体からも政治的にも経済的にも支配されたり、依存したりせず、自分たちで自主自営するということです。「長老政治」は、牧師だけでなく、牧師と長老が共同して教会を治め、牧会していく教会政治のあり方です。

私たちは、使徒信条で告白しているように、公同の教会を信じています。つまり教会は一つであると信じています。教会は、神様の目から見れば、地域や国を越えて、また時代を越えて一つです。それゆえ公同の教会は、目には見えません。しかし私たちは、この地上で目に見える教会を形成しようとする時、聖書解釈や教会政治のあり方に様々な違いがあるため、教派を形成せざるを得ません。教派を形成しなければ、教会形成や牧会、宣教は混乱を極めるからです。さがみのキリスト教会は、日本長老教会に属し、日本長老教会の憲法や信仰基準に従って、教会を形成し、牧会・宣教していく教会と言えます。

さて今日は、教会が様々な教派に分かれる前の最初の教会の姿から、教会のあり方を改めて学んでみたいと思います。

1. 最初の教会の誕生

キリスト教会は、ペンテコステの日に行ったペテロの説教によって誕生しました。ペンテコステの日には聖霊が下さり、ペテロは聖霊に満たされて説教を語ったのです。ペテロは旧約聖書を引用しながらイエス様の十字架と復活を語りました。その結果、41節には「**その日、三千人ほどが仲間に加えられた**」とあります。ペテロのたった一回の説教で、「三千人」の人が救われたのです。ここに当時の特別な聖霊の働きを見ることができますけれど、このペテロの説教によって救われた「三千人」の人たちによって、最初のキリスト教会が誕生したのです。最初のキリスト教会は、ユダヤ人たちを中心としたエルサレム教会でした。

2. 最初の教会が行っていたこと

では、最初の教会は、どのようなことを行っていたのでしょうか。42節を見ると、「**彼らはずいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた**」とあります。ここに「使徒たちの教えを守り」とありますが、ここでの「守る」はギリシヤ語の原文を見ますと、「使徒たちの教え」だけではなく、「交わり」にも「パンを裂くこと」にも「祈り」にもかかっている言葉だということが分かります。ですから、最初の教会は、「使徒たちの教え」「交わり」「パンを裂くこと」「祈り」の四つのことを「守っていた」と言えます。

しかもこの「守る」という言葉は、「専念する」「そこから離れない」という意味がありますので、ここには、最初の教会が「専念していたこと」「離れなかったこと」が書かれています。

最初の教会が第一に専念していたこと、離れなかったことは、「使徒たちの教え」です。「使徒たち」とは、イエス様の弟子たちのことですが、彼らはイエス様と約三年間を共に過ごして、「イエス様の教え」を聞いていたのです。ですから「使徒たちの教え」とは、使徒たちが考え出した教えではなく、「イエス様の教え」そのものであったのです。その意味で、最初の教会は、使徒たちを通して語られる「イエス様の教え」に専念し、離れなかったと言えます。そのような使徒たちを通して語られる「イエス様の教え」は、後に新約聖書にまとめられていきますから、最初の教会は新約聖書に専念し、離れなかったとも言えます。しかしこのことは、旧約聖書はどうでも良いということではありません。イエス様や使徒たちはいつも、旧約聖書を土台に語られました。ですから最初の教会は、旧約聖書と新約聖書に専念し、離れなかったとも言えることができます。最初の教会は、聖書の御言葉に専念し、離れなかったのです。

第二に、最初の教会が専念していたこと、離れなかったことは、「パンを裂くこと」です。この「パンを裂くこと」というのは、聖餐式のことです。最初の教会は、聖餐に与ることに専念し、離れなかったのです。

第三に、最初の教会が専念していたこと、離れなかったことは、「祈り」です。

以上の三つのこと、「御言葉」と「聖餐」と「祈り」は、私たちがイエス様から祝福をいただくための大切な手段だと、ウェストミンスター信仰基準は告白しています。ウェスト

ミンスター小教理問答の問 88 には、このようにあります。「**キリストが、贖いの恩恵をわたしたちに分かち与えるのにお用いになる外的手段は何ですか。答 キリストが、贖いの恩恵をわたしたちに分かち与えるのにお用いになる外的で通常的手段は、キリストの諸規定、特に、御言葉と礼典と祈りです。これらすべてが、選びの民にとって救いのために有効とされます**」。イエス様は、ご自身の「贖いの恩恵」を私たちに分かち与えようとしておられますが、イエス様は特に「御言葉」と「礼典」と「祈り」を通して、その祝福を私たちに分かち与えようとしておられます。ですからもし私たちが、「贖いの祝福」を自分のものにしたいと願うなら、「御言葉」と「礼典」と「祈り」に専念し、離れないことが大切なのです。最初の教会は、まさにイエス様から「贖いの祝福」を得るための手段に専念し、離れなかったのです。

第四に、最初の教会が専念していたこと、離れなかったことは、「**交わり**」です。では彼らは具体的にどのような「交わり」をしていたのでしょうか。そのことは 44-45 節に書かれています。「**信者となった人々はみな一つになって、一切の物を共有し、財産や所有物を売っては、それぞれの必要に応じて、皆に分配していた**」。彼らの「交わり」は、「一切の物を共有する」「交わり」であったのです。しかも自分の「財産や所有物」を売ってまでも、「それぞれの必要」を補おうとする交わりであったのです。ここにある「財産」は、家や土地や畑などのこと（使徒 4：34-37）だと思えます。彼らは、自分の家や土地や畑などを売って、教会の貧しい人々の必要や欠けを補ったのです。使徒 4：34 には、「**彼らの中には、一人も乏しい者がいなかった**」とあります。彼らの「交わり」は、教会の兄弟姉妹の必要や欠けを補い合う「交わり」でした。彼らは、自分の持っているもので、兄弟姉妹の必要や欠けを補い合ったのです。

しかしこのような「一切の物を共有し、財産や所有物を売って、それぞれの必要に応じて、皆に分配する」交わりは、エルサレム教会の初期の段階に特徴的な、そして一時的な「交わり」のかたちでした。この後、エルサレム教会は、様々な試練を経験していきます。5 章になると、このような「交わり」を欺く、アナニヤとサツピラの事件が起こってきます。そして 8 章になると、エルサレム教会は激しい迫害を経験し、クリスチャンたちは各地に散らされて行きます。そして 11 章になると、エルサレム教会は飢饉を経験し、異邦人教会の支援を受けなければならない状況に陥っていきます。このような様々な試練の中で、エルサレム教会は、最初のような「交わり」のかたちを保てなくなっていきます。新約聖書全体を見ても、エルサレム教会以外の教会が、このような「一切の物を共有し、財産や所有物を売って、それぞれの必要に応じて、皆に分配する」ような「交わり」をしたという記録はありませんので、このような「交わり」のかたちは、エルサレム教会の初期の段階に特徴的な、一時的な「交わり」のかたちであったと言えます。

ですからこのような「交わり」のかたちは、いつの時代でも教会が行うべき「交わり」とは言えません。ただ教会は、いつの時代でも、どのようなかたちであれ、兄弟姉妹の必要や欠けを補い合う「交わり」に専念し、離れてはならないと思えます。いつも教会の兄弟姉妹の必要や欠けは何か、と目を配ることは大切なことです。しかしそれは、物質的な必要や欠

けを補い合うことに限られたものではありません。精神的な必要、能力的な必要、肉体的な必要など、兄弟姉妹の様々な必要や欠けのために、自分の持っている物や賜物で補い合う、そのような「交わり」こそ、私たちが専念し、離れてはならない「交わり」と言えます。

3. 最初の教会が集まった場所

さてこれまで、最初の教会が専念し、離れなかったことについて見てきましたが、彼らはこのようなことをどこで行っていたのでしょうか。つまり最初の教会が活動していた場所は、どこだったのでしょうか。

それは第一に「宮」でした。46 節に「毎日心を一つにして宮に集まり」とある通りです。また今日の聖書箇所の中の使徒 3：1 には、「**ペテロとヨハネは、午後三時の祈りの時間に宮に上って行った**」とあるように、彼らは特に「祈り」のために「宮」に集まったのだと思います。この「宮」というのは、旧約時代における礼拝の場です。しかし最初の教会は、新約時代に置ける礼拝と共に、旧約時代における礼拝にも参加していたようです。

では新約時代における礼拝の場は、どこでしょうか。それは「家」です。彼らは、兄弟姉妹の「家」に集まり、「**パンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美**」していたのです。「パンを裂く」という聖餐式は、新約時代における特徴的な礼拝行為ですから、彼らは「宮」ではなく、「家」でそれを行ったのだと思います。彼らは、聖餐式とは別に、「喜びと真心をもって食事をともに」していました。この「食事をともにする」という言葉は、「食事に招く」「食事に呼ぶ」という意味の言葉です。最初の教会は、自分の家に兄弟姉妹を「食事に招き合う」「呼び合う」「交わり」をしていたのです。

このように最初の教会は、「宮」と「家」の両方で、教会の活動をしていたようです。

おわりに

さて最後に、最初の教会が、「宮」や「家」で、「使徒たちの教え」「パンを裂くこと」「祈り」「交わり」に専念し、離れなかった結果、どのようなことが起こったのでしょうか。

それは第一に、43 節にあるように「**すべての人に恐れが生じた**」ということです。この「すべての人」というのは、「教会の外の人」のことです。最初の教会の活動は、教会の外の人たちに「恐れ」を生じさせたのです。この「恐れ」という言葉は、恐怖や不安という意味だけでなく、「恐れ敬う」という「畏怖」を意味する言葉でもあります。ですから彼らの活動は、教会の外の人たちに、神様を「恐れ敬う」思いを与えていったと言えます。

第二に、彼らの活動の結果起こったことは、47 節にあるように「**民全体から好意を持たれていた**」ということです。ここにある「民全体」も、「教会の外の人」のことです。またここにある「好意」という言葉は、「恵み」とも訳せる言葉です。ですから彼らの活動は、教会の外の人たちに「恵み」をもたらしていったと言えます。そのような毎日の積み重ねの中で、47 節にあるように、「**主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださった**」のです。

私たちが最初の教会に立ち返り、救われる人々を加えられる教会になりたいものです。

天におられる私たちの父なる神様。

さがみのキリスト教会が属する日本長老教会が設立して 31 年が経ちました。今や日本全国に 68 教会が属する教派となりました。しかし今、エルサレムに誕生した最初の教会の姿に立ち返らせてください。「御言葉」と「聖餐」と「祈り」を通して、イエス様の「贖いの祝福」を日々与えられて生きていけますように。また互いの必要や欠けを補い合う「交わり」を作っていけますように。どうか私たちの教会を通して、人々に神様への恐れを与え、恵みをもたらしていけますように。どうか主よ、私たちの教会にも救われる人々を加えてください。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。